

せんぼく校の児童が体験

おいしいひなこもちを作ろう！

2月10日、大曲支援学校せんぼく校の小学部7人が地域の方々とふれあいながら地域の文化を学ぶ「ふれあい・たいむ」という授業の一環で、伝統料理を学びました。

この日は、直売所の開設や地産地消を進める「根っこ」の小野マサ会長をはじめ4人の講師をお迎えし、ひなこもち作りを体験しました。根っこの方々は、毎年せんぼく校を訪問し交流活動を行っているので児童たちとはすでに仲よしです。



初めてのひなこもち作りに児童たちも真剣。作り方を教わりながら地域の方々との交流が広がります。

前日には、ひなこもちはどんな行事で作られるのか、どうやって作るのかを学んでいた児童たち。講師の皆さんと一緒にあんこが包まれた白いお餅に、色のついたお餅で模様をつけていきます。いろいろな色をちりばめたり、顔を作ってみたり、思いおもいに彩っていきます。伊藤楓玖さんは「思ってたよりも簡単」と順調に作り進めていました。

蒸して完成したらみんなでお食会。蒸したてであつあつのお餅をほおばりながら「おいしい！」



「つまずぎる」と話していました。先生の「1人2個までですよ」の言葉で2個のお餅をペロリと完食です。

講師の小野会長は「毎回訪問するたびに子どもたちの成長が見えてうれしい」と、辻谷悦子さんは「子どもたちの色の使い方や発想に感心した」と話していました。



自分で作ったひなこもちが格別！

第16回 仙北市民スキー大会

2月7日、「第16回仙北市民スキー大会」が、たざわ湖スキー場で開催されました。大会成績は次のとおりです。



小学2年男子大回転Bで第1位に輝いた吉田結星さん。



小学3年男子大回転Bで第1位に輝いた門脇祥真さん。

各種目1位選手（敬称略）

- 【アルペン】
- ▼小学1年男子大回転B 吉田悠人 ▼小学2年男子大回転B 吉田結星 ▼同女子 櫻田心菜 ▼小学3年男子大回転B 門脇祥真 ▼同女子 佐藤史織 ▼小学4年男子大回転A 小室歳汰 ▼同女子 門脇恋珀 ▼小学5年男子大回転A 笹渕竜馬 ▼同女子 伊藤愛莉 ▼小学6年男子大回転A 佐藤丈 ▼同女子 三嶋愛美 ▼中学男子大回転A 田口天太 ▼同女子 草薨悠那 ▼一般男子A 田中恒清 ▼一般男子B 照井裕也 ▼同女子 田村生子 ▼一般男子C 高橋謙一

善意ありがとうございます
両手ですくう桜の花びらを形に
彫刻家・佐藤励さんが作品を寄贈

角館町在住の彫刻家・佐藤励さんより、角館榊細工伝承館に作品の寄贈がありました。[Sakura Saku Kakunodate] という作品タイトルで、角館の地名が入っていること、何よりも、作品の一部（台座）に角館の榊細工を用いることで、榊細工に特化した施設である角館榊細工伝承館への寄贈となりました。

作品のイメージとしては、ご自身のお子さん（3歳）の頃の桜花爛漫の頃に桜の花びらを両手ですくったところを原型として作っていたそうです。

まつりの時期に、日本彫刻会50周年記念の小品展が東京の日本橋三越本店で開催される予定で作品を仕上げましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、作品展示される事ができませんでした。佐藤さんは「角館の桜に関連した作品なので、しだれ桜や染井吉野と併せて多くの人たちから観てもらえれば」と話しました。

この作品は、角館の榊細工のほかに、手のひらは山形県「山形鑄物」、桜の花びらは石川県「金沢箔」という、三つの国指定伝統的工芸品の技術が同時に活かされています。



寄贈いただいた佐藤励さん。



寄贈された作品 [Sakura saku kakunodate].

栄光・表彰 ~輝くとき

第48回マーチングバンド全国大会
~ e-Marching Special Edition 2020 ~
角館小学校ドリームハーモニー
グッドビジュアル賞を受賞



左から浦山英一郎校長、高橋猛先生、菅原雅人さん、堀川真緒さん、林崎芽由さん、熊谷教育長。

角館小学校金管バンド部ドリームハーモニーが「第48回マーチングバンド全国大会」e-Marching Special Edition 2020」に東北代表として出場し、2月2日に教育長へ報告に訪れました。今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により事前収録した動画を提出し、審査ではなく講評という形で開催されました。講評の結果、グッドビジュアル賞を受賞し、「みんながいたがいた賞。子どもたち同士で教えあって全体的なレベルを引き上げたからこそ」と顧問の高橋猛先生は話します。

全国大会に出場したのは、3年生〜6年生の29人。「政宗」をテーマに甲冑をイメージした赤い衣装を身にまとい、およそ6分30秒のパフォーマンスを披露しました。

動画の収録は12月6日、12日の2日間にわたり協和体育館（大仙市）で行われ、提出した動画は最終日の最後に演奏したものでそうです。「東北大会でよかったところはそのまま、悪かったところは、パート練習や全体練習をして、完成度の高いパフォーマンスを披露できた」と振り返ります。

また、林崎芽由さんは13キロほどの重さがあるテナードラムを激しい動きをしながら演奏することですが「重くて大変だけどパートやみんなが演奏してそろったときに、やってよかったなと感じる」と楽しそうに話してくれました。

2月13日には6年生最後の演奏となるラストコンサートが開催されました。取材当時、最後の演奏まで残り2週間をきり、菅原雅人さんに意気込みを聞くと「大会と違う曲も演奏する。精度を上げられるように練習を頑張りたい」と話しました。